

もの5 植物

木々を歩くと **チクチク、ヒリヒリ!!**



植物は動物や虫に食べられないよう、いろんな仕掛けをして身を守っています。その仕掛けにさわるとかゆくなったり、痛かったり。かきむしったり、目や口に入るとさらにひどくなりますよ。いちばんの予防策は「見分ける」こと。姿かたちを知ることが安全への第一歩です！

植物の気持ちになれば、森に入ってきたニンゲンの方が怖いのかも。私たちの祖先はこの手ごわい相手を薬や衣服などに活用してきました。「森のコワイ!あぶない?」は、実は森の恵みとつながっているのです。

かぶれる

北海道の森で、一番やっかいなのはウルシの仲間でしょう。どこにでもあるし、かぶれると強烈です。目に入ったりしたら大変！北海道に自生するウルシの仲間のうち、皮膚炎を起こすのはツタウルシとヤマウルシです。葉や茎の形に特徴があるので、見分けるのはそれほど難しくはありません。



ツタウルシ

ツタを伸ばすツル植物です。木にからみつくだけではなく、地面をはい、ササやぶにからんでいます。特徴は葉脈がはっきりした3枚葉。あちこちにあるので、姿を覚えておきましょう。

3枚の葉が目印



ツタウルシは3枚の葉が特徴。木や地面に茎をのばすツル植物です。

もっと
知りたい

ウルシの有毒成分はウルシオールという物質。触れるだけではなく、空気中に飛び散った成分(揮発成分)でも皮膚に炎症を起こします。炎症が広がって跡が残ることもあるので、ひどい時は皮膚科に行きましょう。

イチヨウの実(ギンナ)やマンゴー(ウルシ科)にも似た成分があります。

ヤマウルシ



秋には紅葉

1~3メートルほどの高さになり、明るい林に生えています。クルミやヤチダモに似た葉の形ですが、小枝(葉の茎)が赤いのが特徴です。秋には真っ赤に色づき、つい手にとってしまうことがあるので気をつけましょう。

紅葉が美しいのでちょっと手を伸ばしてみたくなるヤマウルシ。明るい林に生える低い木です。



ウルシの予防

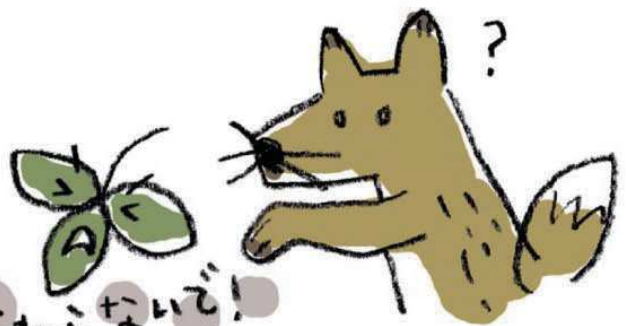
とにかく近寄らない、触らないことが大切です。暑くても長そで・長ズボン・手袋で身を守り、肌の弱い人は、ワセリンなどを塗っておくのもいいそうです。

まず水で洗い流します。

発症までは1~3日かかりますが、かゆくてもかきちゃダメ！かきむしって炎症を広げることが多いので気をつけて。流水や冷やしタオルはかゆみを減らしてくれます。

さわっちゃった!!

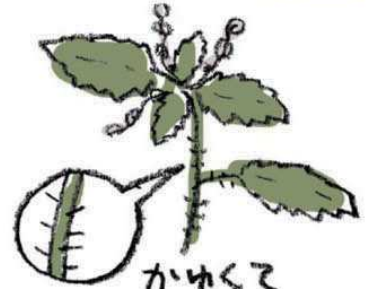
さわらないで!



水で洗って



エゾイラクサ



かゆくてイライラクサ~

さわっちゃった!!

草むらでなんだかチクチク、いつまでも痛いのがエゾイラクサです。ただのトゲではなく、毒素を持った小さな針が無数に生えていて、触れると皮膚に刺さります。平凡な姿なので、とても分かりづらいですが、注意しましょう。

若いエゾイラクサはおいしい山菜。アイヌの人たちは、丈夫な茎の繊維から手触りのいい糸を取り出しました。どうやって気づいたのかな。

こすらないのが一番。

セロハンテープを皮膚に貼ってはがし、見えない針を取り除きます。水洗い後に抗ヒスタミン系の軟膏を塗ります。

ささる



トゲトゲ



見るからにトゲトゲしているのは、タラノキ(タランボ)、センノキ(ハリギリ)、野イチゴ類、アザミ類、

ニセアカシアなど。うっかり手で握ると痛い目にあいます。おいしいものにはトゲがある？

枯れ木



枯れ木を見るとつい揺すってしまいますね。すると先っぽが大きく振られ、ポキッと折れた先が槍となって飛んでいきます。真下に落ちてくることもあるかもしれません！

ムズムズ 花粉症

花粉は植物が子孫を残すための大事な仕組みです。草木が小さな花粉を風に乗せ、広い世界に旅立たせるとき、人間には副作用が起こってしまいます(花粉は遺伝子情報がぎっしり詰まったタンパク質の塊)。

北海道では3~4月にハンノキが花粉を大量に飛ばします。道南にはスギがあり、シラカンバは4~6月まで。初夏から夏は、イネ科の牧草やエゾヨモギが原因となります。

耳鼻科やアレルギーの専門医に相談し、マスクや保護メガネ、花粉除去の対策を。